

# 牛久：学校周辺に見る自然

第5号 牛久自然観察の森

2020年4月5日発行

## ＜ 春の訪れ ～⑤その他の動物 ＞

皆さん、こんにちは。今回は3月26日、牛久自然観察の森で見られた、花に来ていた虫以外の動物たちの紹介です。



秋～冬に、山地から積雪のない低地のヤブに降りてくるアオジ。左がオスで右がメス。

ヤブの中から、アオジの声が聞こえてきました。しばらく待っていると、まずオスが、続いてメスが姿を見せてくれました。アオジは秋～冬に、北海道や本州の山地から、低地のヤブに降りてきて、厳しい冬を越します。そしてもうしばらくすると、また戻っていきます。



胸のネクタイ模様が目だつシジュウカラ(左)と、日本最小のキツツキ、コゲラ(右)。

ネクタイ模様が目印の、シジュウカラもいました。これから夏にかけてが繁殖期で、木があれば住宅の庭でも見られるようになります。人工の巣箱にも入りますが、繁殖期は神経質になるようなので、離れて観察するようにしましょう。寿命は、1年半ほどだそうです。

しきりに木の幹をつついて、エサの虫を探すコゲラもいました。日本最小のキツツキです。

おまけに、牛久自然観察の森ではありませんが、うちの近所で見られたサシバです。電柱のてっぺんにとまっていたのですが、こちらに気がつくとも飛んで行ってしまいました。夏鳥のタカで、関東では例年3月下旬ころから見られるようなのですが、今年は2月上旬から、稲敷市や龍ヶ崎市の田んぼで見かけています。



夏鳥のタカ、サシバ。今年は、2月から見かけている。



冬眠を終えて歩きまわるニホンアマガエル(左)と、池を黒く染めるアズマヒキガエルのおたまじゃくし(右)。



観察舎の草原では、ニホンアマガエルがのたりのたりと歩きまわっていました。冬眠から覚めたばかりなのででしょうか、まだゆっくりとした動きでした。そして池では、アズマヒキガエルのおたまじゃくしが群れてまっ黒なかたまりとなっていました。また、コムラサキの池では、ミシシippアカミミガメが何頭も日向ぼっこをしていました。

日向ぼっこする帰化動物、ミシシippアカミミガメ。



幹のくぼみなどに集団でかたまって越冬していたヨコヅナサシガメ幼虫も、暖かくなってバラバラに離れ始めていました。成虫で越冬していたルリタテハも、どこからか飛んできて、日向ぼっこしています。



春になるとよく目にする、マルクビツチハンミョウもいました。ツチハンミョウのなかまはアリを太らせ大きくしたような姿で、ハナバチ類の巣に寄生します。触ると関節から黄色い液を出すのですが、有毒で皮膚炎を起こしたりするので気をつけましょう。

【理科支援員：宮内】



越冬後、離れていくヨコヅナサシガメ(上2枚)と成虫で越冬したルリタテハ(左下)、マルクビツチハンミョウ(右下)。